

2022年  
5月号

# 赤れんが通信

北海道の冬のアクティビティー



www.pref.hokkaido.lg.jp

北海道庁国際課国際交流員のスティバードホークス・マクスウェルが  
冬の北海道で静かに楽しめるアクティビティーを紹介します。

## 冬の静寂



▲ 美瑛町の雪原

「北海道」といえば「冬」でしょう。そして、「冬」といえば「北海道」。北海道の冬は今や世界的に有名になり、紹介するまでもないかもしれません。ふんだんに降る粉雪が世界中のスキーヤーやスノーボーダーを虜にし、単なる「snow」とは違う北海道の雪質は「JaPOW」と命名されるほど、彼らの憧れの的となっています。そしてこの雪は、北海道の一大イベント「さっぽろ雪まつり」の主役を張り、毎年さまざまな巨大雪像に変身して大勢の観光客を喜ばせます。ニセコの雪山にも、札幌の山ほどある雪にも、北海道の冬ならではのスケールの大きい見どころやスリルが数多くあります。刺激を求める人にとって、北海道は冬の楽園と言ってよいでしょう。

しかしこの時期の北海道には、大きなイベントの影に隠れてしまいがちな、静かな魅力もあります。ここ数年、新型コロナウイルスの影響で中止になった大規模イベントが多かったので、一人でも楽しめる、より穏やかなアクティビティーを試してみる方々が増えてきたと思います。これから、のどかな魅力たっぷりの、北海道ならではのアクティビティーを紹介したいと思います！

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html)

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Maxwell Stibbard Hawkes)  
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

# ジュエリーアイス

北海道に冬が訪れると多くの川や湖が凍りつき、風景が一変します。この氷が解けて割れ、海まで運ばれ、波に翻弄された後、陸に投げ出されてきます。海で綺麗に磨かれた氷が宝石のようにキラキラ輝くことから、これらの氷は「ジュエリーアイス」と呼ばれるようになりました。近年、このジュエリーアイスはカメラマンに人気の被写体となっており、冬になると氷の中で踊る光をとらえるために海岸に向かう人が少なくありません。



▲ 白糠町で見つけたジュエリーアイス

雪花と同様にジュエリーアイスは一つ一つが違います。よく見ていると、それぞれ異なる由来を語ってくれます。澄みきったものがあれば、濁ったものもあります。波で良く磨かれてツヤツヤしたものがあれば、あまり磨かれないまま上陸し、ゴツゴツしているものもあります。無数の気泡が入り、スイスチーズのように見えるものがあれば、ビリヤードボールのように固くガッシリしたものもあります。

このようにジュエリーアイスは多様性に溢れてはいますが、結局どれも同じ運命をたどることになります。つまり、海に溶け出し、かつて氷を形作っていた海流の一部となるのです。ダイヤモンドのように見えてはいても、ジュエリーアイスは金剛とは違い、もろく儂いものです。しかし、秋の紅葉や春の桜と同じように、この儂さには美しさがあるでしょう。

季節が進むと、新しい氷が流れ着き、古い氷は解けて変形し、1日の中でも天気や空の様子と共に、氷の中の色彩が万華鏡のように変化していきます。絶え間なく進化し続けるところがジュエリーアイスの魅力であり、見に行くたびに新しい光景に出会えます。

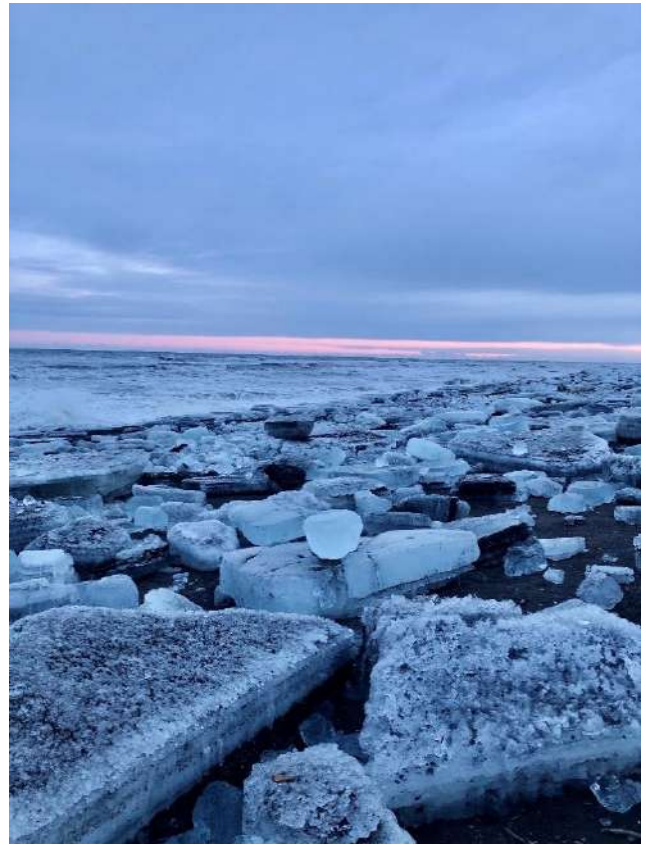


▲ 海岸に散らばっている様子

ジュエリーアイスは様々な要因(天候・温度など)に左右されるため、いつ、どこに現れるのかを正確に予測するのは簡単ではありませんが、特に現れやすい好条件が揃っている場所もあります。その一つが十勝管内の中川郡豊頃町にある大津海岸です。見ごろの時期はおおむね1月中旬から2月下旬頃までです。北海道の冬は長く、寒くて暗い日が少なくありませんが、ジュエリーアイスがピカピカ輝いている様子を見ると、心もきっと明るくなるでしょう。



▲ 漂着したばかりの氷塊



▲ やはり寒かった



▲ 色とりどりの夕焼け

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html)

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Maxwell Stibbard Hawkes)  
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

# バードウォッチング

バードウォッチングという趣味を持つ人の中には、非常に熱心な愛好家もいます。スチュアート・キースやケン・カウフマンのように世界中を巡って何千もの種を記録して旅した人もいれば、この趣味にのめりこんだあまり命を落とした人もいます（1985年にインドでバードウォッチングツアーの引率をしていたデビッド・ハントは虎に襲われ死亡しました）。



▲ オオワシ（フェニックス・スコットニー）

しかし、バードウォッチングは本来、危険な趣味でも、マニアやお金持ちだけのものでもありません。野鳥観察を楽しむために、高価な双眼鏡やフィールドスコープを買ったり、野鳥の百科事典を暗記したりする必要はありません。野鳥が大きく識別しやすい場合は特にそうです。北海道には、大型で象徴的な鳥類が生息しているため、経験者にとっても初心者にとってもバードウォッチングに最適な場所ではないかと思えます。

このなかでも特に識別しやすいのが「丹頂」という鶴です。「白・黒・赤」の色彩が印象的で、体も鳴き声も非常に大きいため、「丹頂」はまさに「探鳥」しやすい鳥類だと思います。昔から文学や美術のモチーフに多用され、近年では千円札や日本航空のロゴマークに登場したこともあり、日本の象徴的な存在となっています。

体長は約 1.5m、翼を広げると 2m を超えるので、近づかなくても、丹頂の洗練された姿を観察できます。白黒の体に対し、名前の由来である赤い頭頂が落款印のように目立ちます。優雅な動きと相まって、まるで生きた墨絵を鑑賞しているような印象を与えます。



▲ 丹頂（フェニックス・スコットニー）

100年前なら、丹頂の数は全国で数十羽にまで減っていたので、北海道へ丹頂を探鳥に行くことをお勧めできなかったでしょう。ところが、釧路管内などで実施された保護プログラムの成功のおかげで、丹頂は絶滅の危機から立ち直り、現在では 1,800 羽以上が北海道に生息しているとされています（そのほか、アジア大陸に生息している丹頂もいます）。

その復活劇に欠かせない地域のひとつが、北海道東部にある「鶴居村」です。私は何度も鶴居村に行ったことがあります。その名のとおり、「鶴が居る」ということを確認できます。



▲ オジロワシ (フェニックス・スコットニー)

特に、「鶴居・伊藤 タンチョウ サンクチュアリ」は丹頂観察の絶好の場所です。冬になると、丹頂がここに大勢集まり、餌を食べたり、踊ったり、大声で「カッ、カッ、カァ！」と鳴いたりします。こ

の騒々しい鳴き声は、丹頂の上品で洗練されたイメージとはかなりギャップがあると思いますが、特徴的であることは間違いありません。丹頂の姿が視野に入る前に、かん高い鳴き声が耳に入ってくるでしょう。早起きして丹頂を見に行けば、目覚まし時計の役割をしてくれます。

北海道東部にはバードウォッチングスポットがほかにも多くあります。屈斜路湖や濤沸湖などには白鳥が多く集まり、世界遺産登録地域である知床では、オオワシやオジロワシなどの大型猛禽類を見ることができます。

もちろん、北海道には大型鳥類だけではなく、たくさんのかわいい小鳥もいますが、超単調な探鳥の長文にならないよう、ここでこのセクションを終了いたします。とりあえず、大鳥の取り柄を取りまとめました。機会があれば、ぜひ北海道へ見に来てください！



▲ オジロワシ (フェニックス・スコットニー)

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html)

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Maxwell Stibbard Hawkes)  
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303



▲ 白鳥 (マイケル・アーサー)



▲ 白鳥 (マイケル・アーサー)

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html)

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Maxwell Stibbard Hawkes)  
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303



▲ オオワシ (フェニックス・スコットニー)



▲ オジロワシ (エイズ・ジーユー・ペンシー)



▲ トンビ (メイ・ジョイ・アルカラス)

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html)

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Maxwell Stibbard Hawkes)  
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

# 冬のハイキング

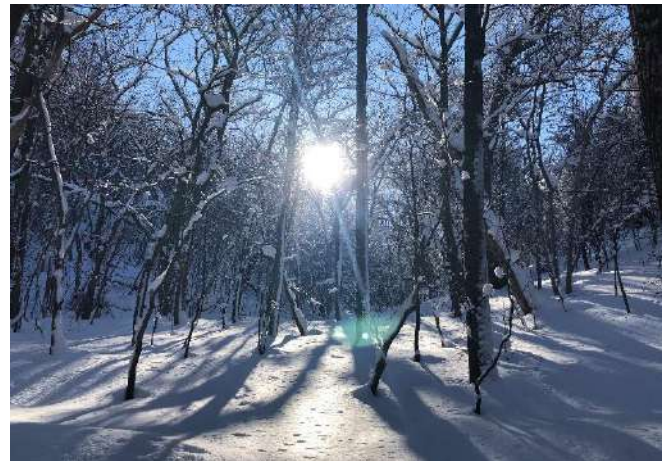
北海道の極めて厳しい冬に、あえて山奥へ向かうのは愚行の極みだという風に思われるかもしれなません。確かに、険しいトレイルは、ベテラン登山家や野生動物に任せた方がいいと思います。しかし、安全でアクセスしやすいルートも多くあるので、冒険を求めている方も冬のハイキングを楽しめるでしょう。こういった安全なルートは札幌市の周辺にもあります。大都会の近くにあるため、携帯電話が繋がらなく恐れがないし、雪がすでに踏み固められて歩きやすいし、万が一事故が起こっても助けてくれる人もいるはずですので、初心者にも最適です。



▲ ハイキングポーズしなくちゃ

札幌の人気ハイキングコースといえば、2015年に「日本新三大夜景」に認定された、市街地を一望できる藻岩山の山頂への登頂です。星空の下、格子状に並んだ街の灯りが煌めく様子はとてもロマンチックだし、昼間の景色もまた格別です。

晴れた日には、市街地はもちろん、広大な空知平野や、北海道の背骨をなす日高山脈まで見渡すことができます。夜と昼の景色は全く違う印象を与えます。夜、札幌を見下ろすと、宝石をちりばめた王冠のように見え、「やはり北海道を代表する立派な大都会だ」という印象を受けます。昼には背景にある大地や山脈まで眺めることで、「北海道の広大さに比べると、札幌って小っちゃいなあ」という感じがします。



▲ 木漏れ日

藻岩山は山頂までロープウェイで行けるので、実は山に登る必要はありません。私は登山する以前、何度もロープウェイで山頂まで行ったことがあり、素晴らしい景色が印象に残っています。でも、やはり、自分の力で登ったときは達成感があり、てっぺんで食べた大福が何倍も美味しく感じました。



▲ 山頂に近づく

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html)

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Maxwell Stibbard Hawkes)  
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303



様々な登り方があるため、熱心な登山者も、ゆっくりしたい人も、様々な人が山頂で集まって一緒に景色を楽しむことができます。そして、明るいうちに登って、展望台でコーヒーを頼んで体を温めて、太陽が沈んだら夜景を満喫しながらロープウェイで下ることも可能です。そうすると、昼の景色も夜の景色もハイキングとロープウェイのそれぞれの魅力も味わうことができます。それに、暗闇の中で雪山を下る必要はないので安全です！

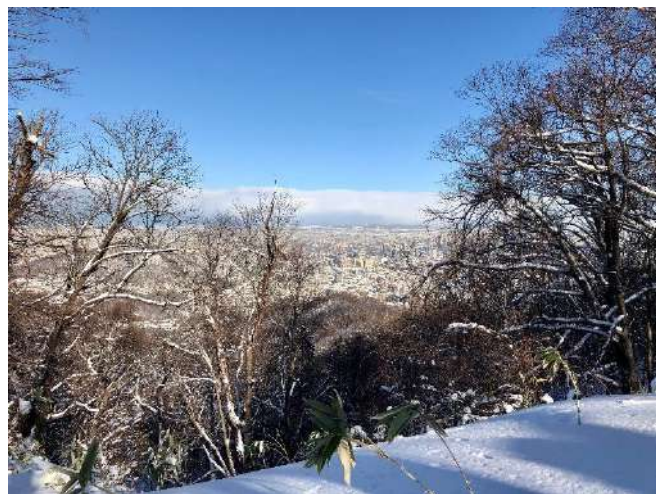


▲ 山頂の景色

山頂まで登る場合は、アイゼンの着用をお勧めします。アイゼンがないと、固まった雪で覆われた坂道が滑りやすく、登るのがかなり難しくなると思います。1月～3月の間で、藻岩山に2回登りました。1回目はアイゼンなしで登ってみました。2回目は割と安い(2000円以下)のアイゼンを装備してから登ってみました。結果、雲泥の差でした。アイゼンありの挑戦は、森の中の気軽な散歩みたいな経験でした。それに対して、アイゼンなしでの挑戦では、滑りながら登ろうとしても、あまり進めなく、脚がバタバタしてしまい、私はまるでローラースケートをしようとしているタコのように見えたでしょう。ようやく山頂に着いた時には、もう連続2～3回も登ったような感じでした。

もちろん、山に登らなくても北海道の冬の景色は楽しめます。平坦なトレイルも多くあり、適切な靴と防寒具があれば、気温が下がっても大自然を楽しむことができます。

北海道には冬ならではの魅力がたくさんあります。冬の日が短いからこそ、積極的に明るいうちに外へ出かけてアウトドア活動を満喫するのが大事ではないかなと思います。



▲ 登山中の札幌の様子

スキー、スノーボード、スノーシュー、ファットバイク、ソリ、バナナボート、アイススケートなど、北海道はさまざまなウィンター・アクティビティを誇ります。大量に降る上質な雪のお陰で、冬になったら退屈することはありません。この雪を体験したら、きっと虜になると思います。それが「JaPOW」の「POWER」ではないでしょうか。



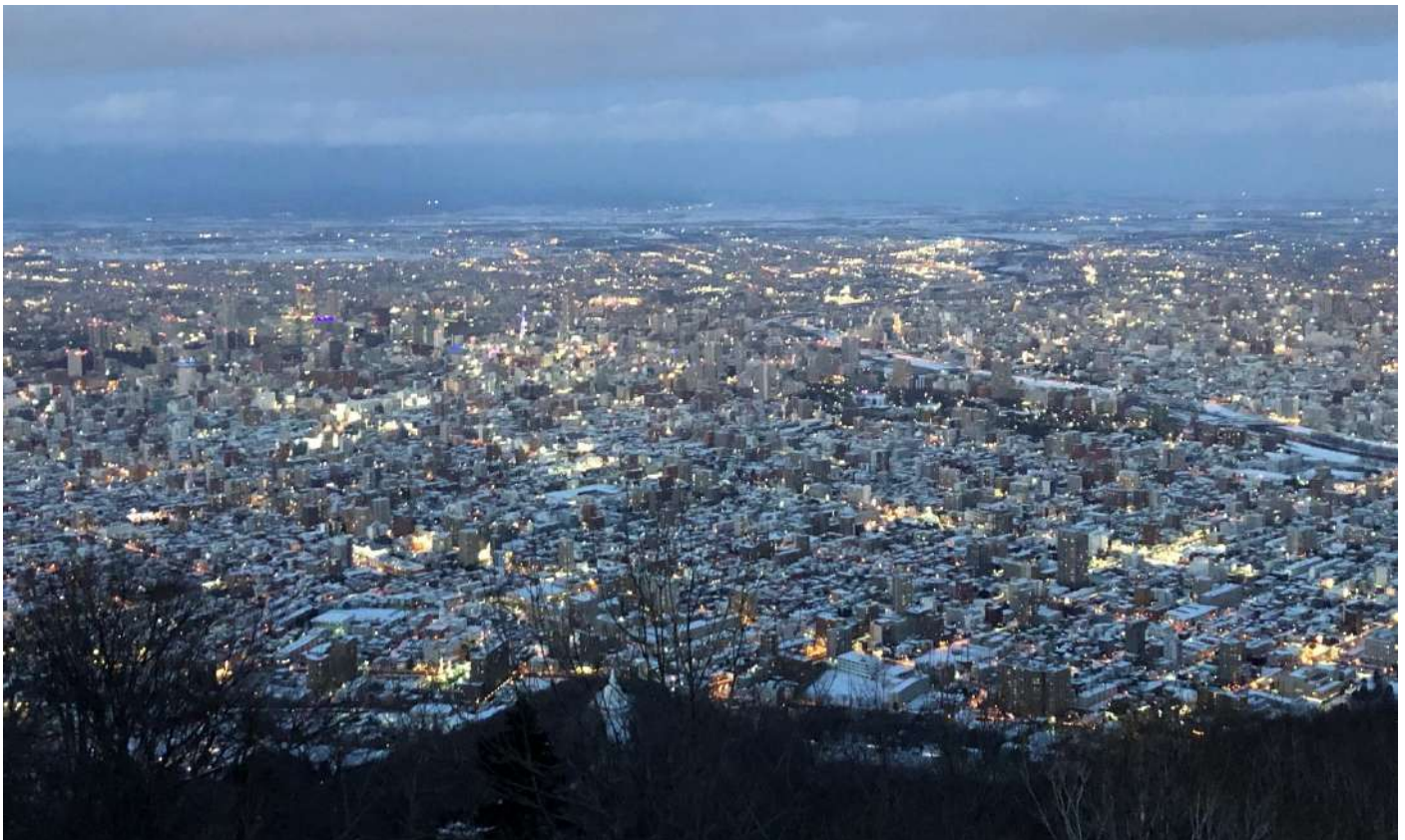
▲ 「JaPOW」ではしゃいでいる父親



▲ 出発



▲ スノーパパ



▲ 藻岩山の絶景

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html)

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Maxwell Stibbard Hawkes)  
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81 (0)11-231-4303

# 道庁の雪だるまさん



▲ すのうすけ1世



▲ ビッグバリーと金さん



▲ スノウィ・アレンとキュンちゃん



▲ パウダーガイスト



# 北海道 JET スポットライト



北海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、イギリス、オーストラリアなどから約300人のJETプログラム参加者（外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員）がいます。赤れんが通信では、こうした様々な国々からやって来た皆さんのストーリーを伝えていきます。



## MEET SOHYUN KIM

今回は、翻訳者、ベアシスト、そしてキュンちゃんファンの金昭賢（キム・ソヒョン）さんを紹介します。金さんは北海道総合策部国際局国際課のCIR（国際交流員）です。JETプログラム参加4年目です。

簡単な自己紹介を聞かせてもらえますか。

こんにちは！北海道庁国際課に勤めている金昭賢（キム・ソヒョン）と申します。韓国の首都「ソウル特別市（ソウル）」出身で、いつのまにか4年目のCIRになりました。好きな活動は旅行と運動、写真撮影、音楽鑑賞、コーヒーを飲むことです。



▲ 支笏湖の景色を満喫している金さん

北海道（日本）へ来たきっかけは何でしょうか。

私は韓国で日本語の通訳・翻訳の仕事をしていました。フリーランスだったので、毎回会社を転々としながら、新しく出会う人たちと様々なプロジェクトを行っていましたが、より長い間集中できる環境で働きたいと思い、新しい仕事を探しました。ある日JETプログラムの募集を偶然目にし、今までの経験を活かせると考え応募しました。今まで旅行や出張などで20回以上日本を訪問しましたが、北海道に来たのは今回が初めてです。そして、この地域に配置されたのは「運命」ではないかと時々思います。北海道は、私が生まれ育ったソウル市と友好提携を、そして札幌市は、昔住んでいたドイツのミュンヘン市と姉妹都市提携を結んでいる地域だからです。北海道の冬はとても長くて寒いと聞いたので心配していましたが、ホッカイロのように心が温かい方々が周りにたくさんいらっしゃるの、幸せに暮らしています。

これまでの経験はいかがでしたか。

この3年間、国際交流員として道内の色々なところに出張に行ったり、行事に参加したりすることで、たくさんの方々に出会いました。そこから新しく学び、感じることで人生の幅をより広げることができたと思います。また、業務で風景写真を撮ることや文章を書く機会も多くあり、普段から好きなことを仕事にすることができて楽しいです。国際交流員が多様なことを経験できるよう、快く支援して下さる職場の皆さんにこの場を借りて、お礼を申し上げます。

北海道に来て気づいたことがあります、それは夏がなかなか素敵な季節ということですよ！(韓国の夏は梅雨の季節なので、じめじめして暑いですが)それだけでなく、毎日同じように流れる日常には美しさと多彩さが潜んでいることにも改めて気づかされました。道端に咲いた花を観察したり、雪だるまが日々変わる様子を見守ったりするなど、些細な日常ではありますが、それらはおそらく私がずっとソウルにいたら、きっと経験できなかったはずの瞬間でしょう。

これまで一番印象に残っていることは何でしょうか。

出張で稚内～礼文～利尻を訪問したことです。移動中に車から流れる音楽を聞きながら果てしなく広がる大地を眺めたことが印象に残っています。生きているウニを触ってみたり、大きな昆布を加工してみたり、アザラシに餌をあげるなど、自然を身近に感じられる体験もしました。更に、新鮮な海産物や郷土料理を食べて地域の魅力をたっぷり感じる事ができました。夜には星を見に出かけましたが、地面に横たわっておしゃべりをしながら待ってみても、結局晴れなかったので星を見ることができず戻ってきたのも今考えてみれば思い出のひとつです。



▲ 羊ヶ丘展望台

読者の皆さんの地域では星がよく見えますか?!「夜空を彩る星」を見に皆さんのところへ訪問してみたいです。

住んでいる地域の好きなところは何ですか。

札幌は北海道で一番賑わう地域だと思いますが、自然と触れ合える場所が多くあります。藻岩山、モエレ沼公園、羊ヶ丘展望台など、市内のあちこちに緑が広がり、週末にはゆったりリフレッシュすることができます。(※野外活動の際には熊さんたちに遭遇しないよう、くれぐれもご注意ください🐻💧)

また、車で札幌市内を少し抜けると、カモメたちの歌声が聞こえる銭函の海、魚たちが楽しく泳ぐ支笏湖など、水のある風景も見られるのが魅力ではないかと思います。

